

 東京都

 吸収・除去系カーボンのクレジット創出促進事業

 green carbon

吸収・除去系カーボンのクレジット創出促進事業 最終報告会資料

Green Carbon株式会社

Ver.2026.01

■ 本資料の流れ

会社概要

-事業紹介/最新TOPIXについて-

実証事業内容

-概要について-

現時点の成果 & 今後

-取り組み状況の共有-

Appendix

-その他TOPIXについて-

会社概要

-事業紹介/最新TOPIXについて-

■ 会社概要

会社名 : Green Carbon株式会社 (Green Carbon,inc.)

本社 : 千代田区麴町2-3-2 半蔵門PREX North 9F

代表者 : 代表取締役 大北 潤

設立 : 2019年12月12日

営業所 : 北海道・新潟 (北陸営業所) ・宮城 (東北営業所) ・秋田

支社 : オーストラリア、フィリピン、ベトナム、インド、 (タイ)

資本金 : 8億529万円

事業概要 : クレジット創出・販売事業、農業関連事業、関連環境事業
その他関連する事業及びコンサルティング

主要株主 : NTTドコモビジネス株式会社・SMBCベンチャーキャピタル株式会社・
スカパーJ S A T株式会社、住信SBIネット銀行株式会社・
株式会社八芳園ホールディングス・芙蓉総合リース株式会社・
三菱UFJキャピタル株式会社・三菱UFJ信託銀行株式会社 など (五十音順)

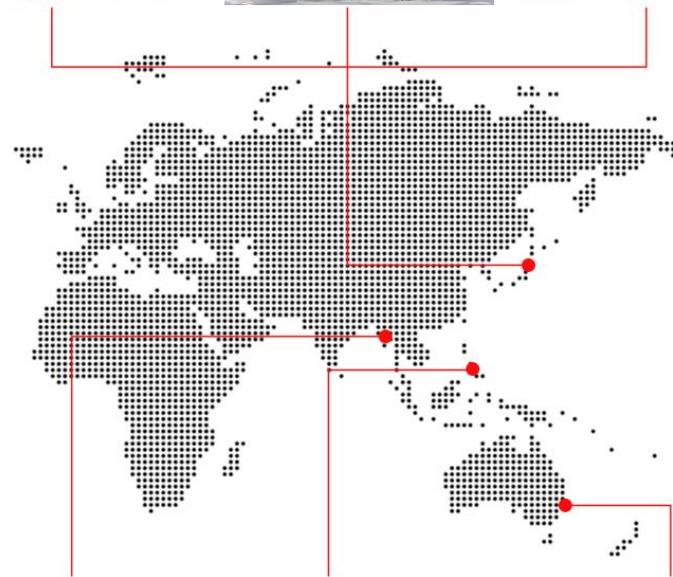
北陸営業所



東京営業所



北海道営業所



ベトナム営業所



フィリピン営業所



オーストラリア営業所



事業展開領域

Vietnam

水田/バイオ炭/マングローブ



India

水田/バイオ炭



Japan

水田/バイオ炭/酪農/森林



Philippines

水田/バイオ炭/マングローブ/森林再生



Thailand

水田/バイオ炭



Cambodia

水田/バイオ炭



Malaysia

バイオ炭



Indonesia

水田



Australia

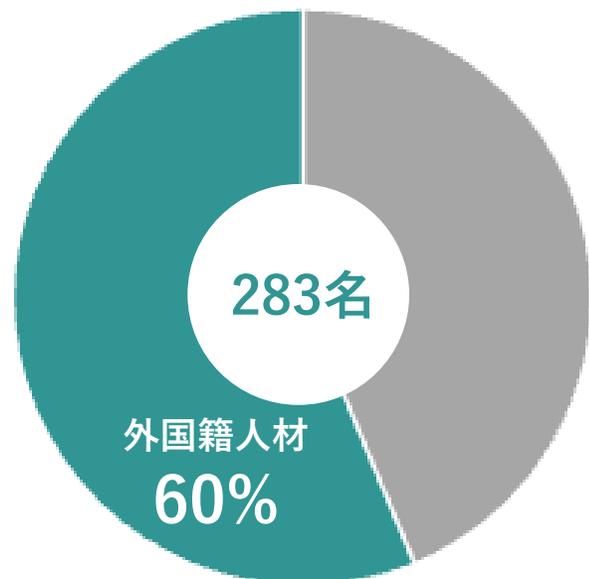
農地貯留



10カ国
以上

■ グローバル体制（数値で見るGreen Carbon）

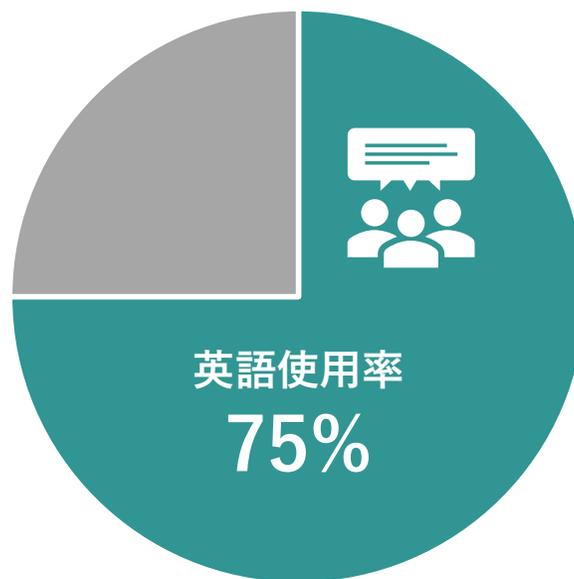
グローバル体制



約60%が外国籍人材

フィリピン/ベトナム/インドネシア/インド/中国/タイ/
パキスタン/アメリカ/バングラディッシュ/カンボジア/韓
国/マレーシア/ネパール/モンゴル/フランス/チュニジア
/リベリア/シンガポール/イギリス/ナイジェリア/ミャン
マー/マダガスカル/オーストリア/オーストラリア

ビジネス英語使用比率



ビジネス英語使用率は**75%**を超える

グローバルイベント登壇実績



アジア諸国をはじめ、様々な国での
イベント・セミナー登壇実績

■ 採択助成金・補助金一覧

JETRO・JICA・東京都などから**累計13億円**の補助金・助成金を受ける

JETRO

グローバルサウス未来志向型
共創等事業（大型実証）



交付金額：8.6億円

JETRO

日ASEANにおける
アジアDX促進事業



交付金額：4千万円

JICA

中小企業・SDGsビジネス
支援事業



交付金額：2千万円

JICA

オープンイノベーション
TSUBASA



交付金額：2千万円

東京都

吸収・除去系カーボン
クレジット創出促進事業



交付金額：4千万円

東京都

グリーンスタートアップ採択
ソーシャルXプログラム採択



JAXA

衛星利用に関する
データ利用研究



交付金額：2千万円

東京都中小企業振興公社

ものづくり補助金
グローバル型第8次・20次



※8次：1.5千万円・20次：2.5千万円

交付金額：4千万円

東京都

新規事業 グローバルサウスの
GX促進プロジェクト



交付金額：1.5億円

中小企業基盤整備機構

中小企業新事業進出補助金



交付金額：1.5億円

■ 創出可能J-クレジット



**水田
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット
創出クレジット：6,220t
(※2023年度実績)
創出クレジット：100,000t
(※2024年度創出予定)



**森林
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット
創出クレジット：約600t
(予定)
※プロジェクト登録完了済



**バイオ炭
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット
創出クレジット：約100t
(予定)
※プロジェクト登録完了済



**家畜の糞尿処理
J-クレジット**

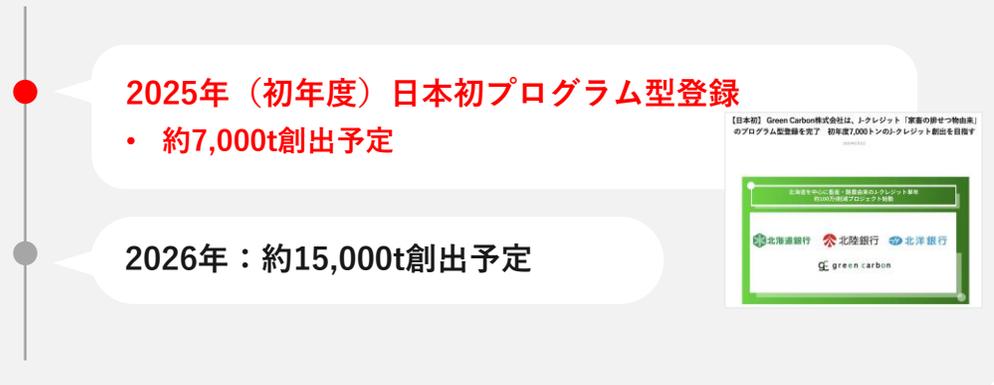
認証機関：J-クレジット
創出クレジット：約7,000t
(予定)
※プロジェクト登録完了済

水田 J-クレジット



- 2023年（初年度）日本初・最大規模
 
- 2024年 最大規模
 - 約40,000haの水田農家と契約
 - 約65,000tのクレジットを創出
- 2025年
 - 約65,000haの水田農家と契約
 - 約150,000tのクレジットを創出

家畜の糞尿処理 J-クレジット



- 2025年（初年度）日本初プログラム型登録
 - 約7,000t創出予定
- 2026年：約15,000t創出予定

森林J-クレジット



- 2025年
 - 約5,000t規模のプロジェクトを進行中

海外のプロジェクト組成状況

水田

2026年 約**440,000t**の創出目標

	2025	2026
フィリピンPH	10,000ha	58,000ha SOLD OUT
ベトナムVN	55,000ha	191,000ha
カンボジアKH	42,000ha	150,000ha

※ほかタイ・インドネシアでもプロジェクト組成

バイオ炭

2026年 約**10,000t**の創出目標



	2025
インドIN	プラント10機 (予定)

その他

植林
2026年 プロジェクト開始
マングローブ
2026年 プロジェクト開始

	2025
フィリピンPH	2,000ha



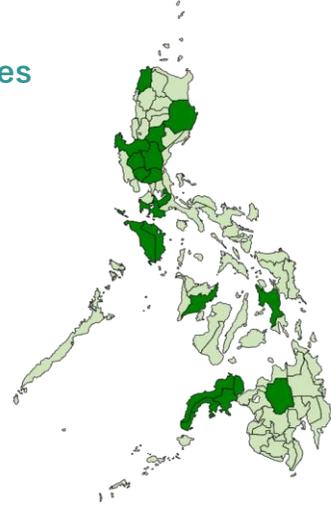
Vietnam

19 Provinces




Philippines

15 Provinces



約**30,000t**の創出予定



Thailand

6 Provinces




Cambodia

1 Provinces



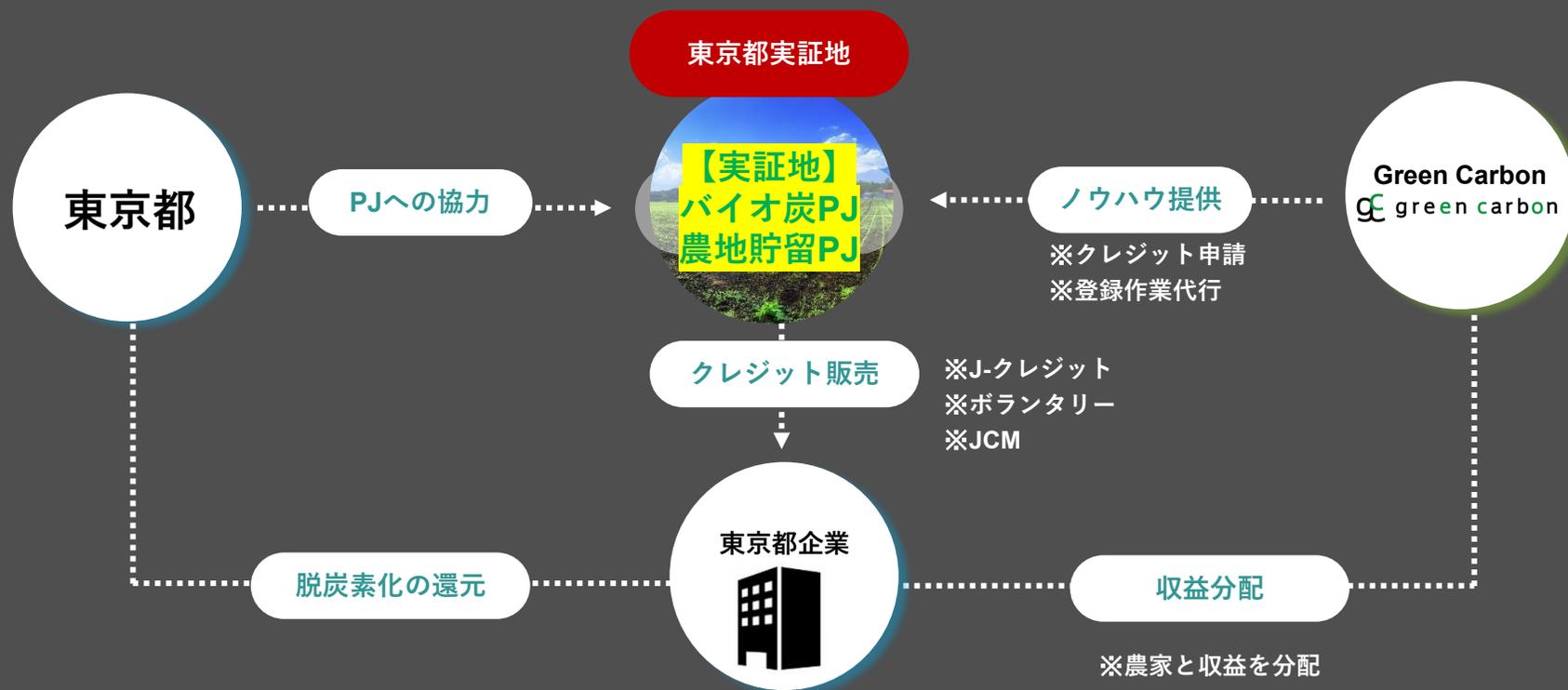
実証事業内容

■ プロジェクト概要（バイオ炭・農地貯留PJ）

東京都の実証地を活用し、**除去系（バイオ炭・農地貯留(カーボンファーマーミング)**）のクレジット創出プロジェクトを実施。

創出したクレジットを、東京都内の企業に販売し、東京都内の農家に収益を還元。**東京都自体の脱炭素化を促進。**

※創出するクレジットは「J-クレジット、ボランタリークレジット」を想定



■ ゴールイメージ

東京都で吸収・除去系クレジットの**創出実績（第1号）**を創出。創出したクレジットを活用した**脱炭素モデル**を作ること、日本全域においても初の事例を創出することになる。**農家への収益還元や、脱炭素企業の活性化**にも繋がる。

実証事業(クレジット創出)

脱炭素モデルの構築 (クレジットの活用)

ノウハウを横展・全国展開

吸収・除去系クレジット
※バイオ炭
※カーボンファーム

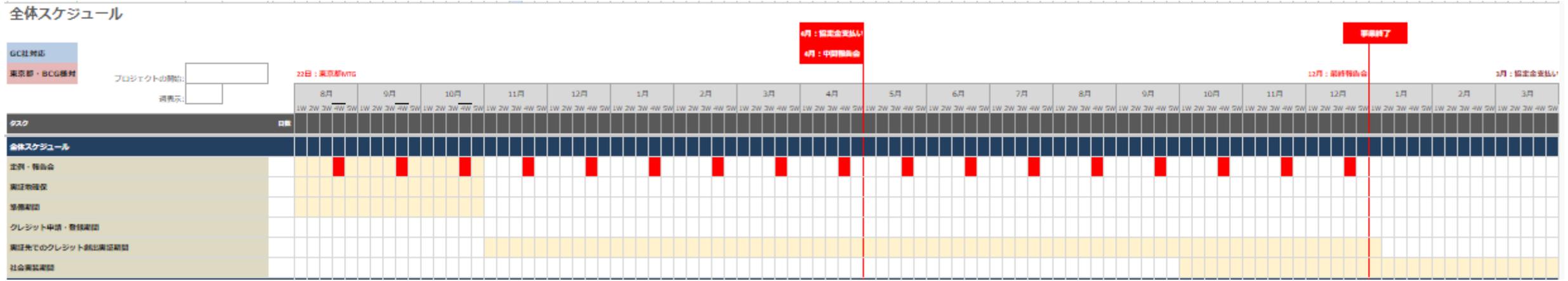


©DESIGNALIKIE

■ 本実証実験の成果指標

KPI①	東京都（実証先）の確保とバイオ炭クレジットの創出	種別	クレジット創出量	単位	量(t)/割合(%)
KPIの概要、測定方法	<p>東京都には約6410haの約73.8%が畑作（5019ha）、耕作放棄地（3045ha）合計約8064haのクレジット創出対象地域がある。初年度（令和6年度）に関しては約100ha程度でバイオ炭クレジットを創出。創出量は約100t程度。創出したクレジットを東京都の企業、東京都が購入しオフセット活用事例を創出。次年度（令和7年度）1000haでのバイオ炭クレジット（約1000t）の創出を想定。</p> <p>クレジット販売金額に換算すると初年度は300万円（100t×30,000円/t）、次年度は3000万円。</p> <p>※出典：農林水産省</p>				
KPI②	東京都（実証先）の確保と農地貯留（カーボンファーム）クレジットの創出可能性の検討、実証地での炭素貯留量計測	種別	貯留量計測実施 PJ登録の実績 クレジット創出	単位	実績
KPIの概要、測定方法	<p>東京都には約6410haの約73.8%が畑作（5019ha）、耕作放棄地（3045ha）合計約8064haのクレジット創出対象地域がある。初年度（令和6年度）に関しては農地貯留を活用しクレジット創出が可能かをPoC。10～100haの畑、休耕地、荒廃地を活用し、炭素貯留量を計測。炭素貯留が可能であれば、次年度（令和7年度）に約100ha程度で農地貯留によるクレジットを創出。創出量は約500t程度。創出したクレジットを東京都の企業、東京都が購入しオフセット活用事例を創出。</p> <p>クレジット販売金額に換算すると次年度は250万円（500t×5,000円/t）炭素貯留量計測のPoC、PJ登録に向けた動きを2年で遂行。</p>				

■ スケジュール・マイルストーン



フェーズ①

マイルストーン2025年3月～4月

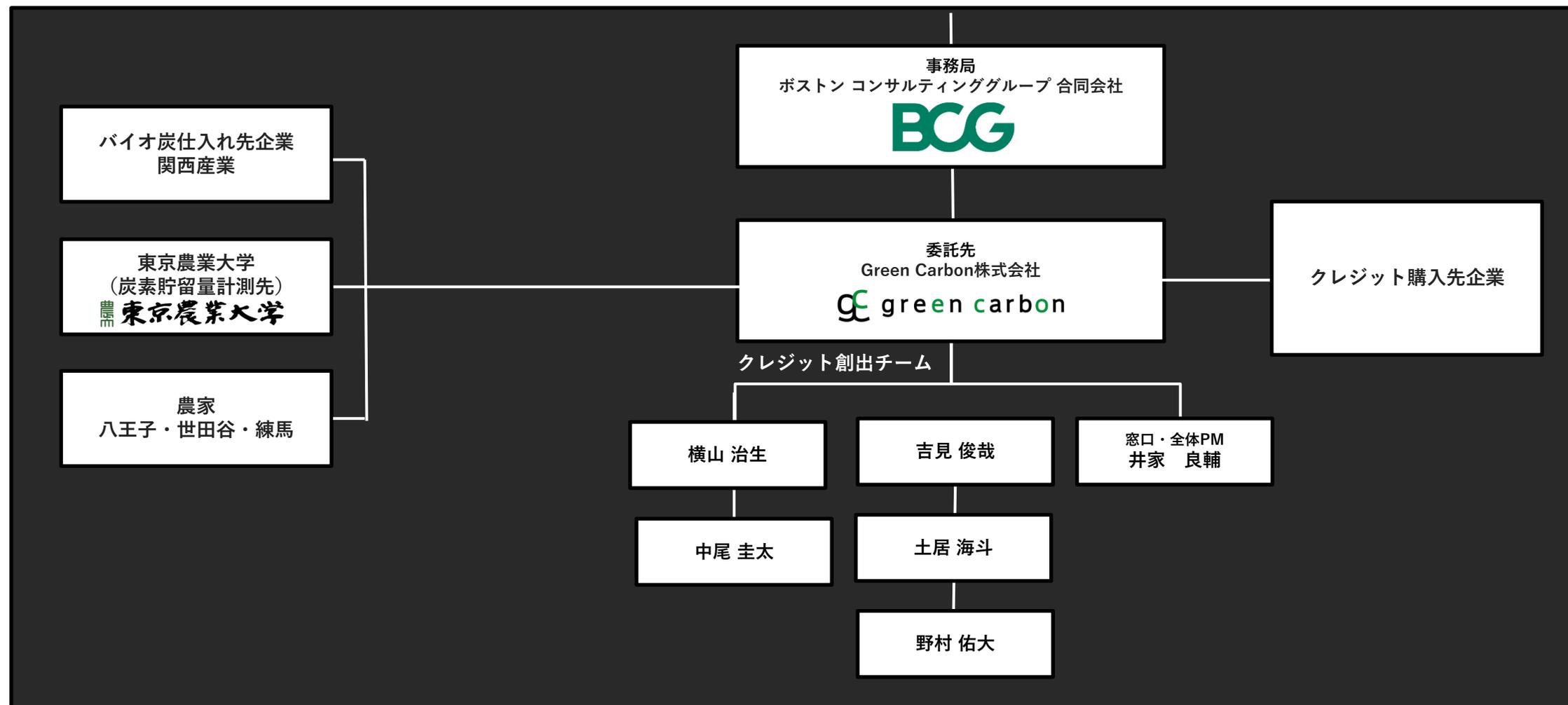
- ◆ バイオ炭
 - ・ 100haの農地でバイオ炭クレジットの創出
 - ※100t程度を想定
- ◆ 農地貯留（カーボンファーマーミング）
 - ・ 実証地で炭素貯留量の計測

フェーズ②

マイルストーン2025年12月～2026年1月

- ◆ バイオ炭
 - ・ 1,000haの農地でバイオ炭クレジットの創出
 - ※1,000t程度を想定
- ◆ 農地貯留（カーボンファーマーミング）
 - ・ 実証地で炭素貯留量の計測
 - ・ ボランタリークレジットの登録
 - ・ 100ha程度でのクレジット創出
 - ※500t程度を想定

■ 実施体制（想定）



バイオ炭・カーボンファーミング（農地貯留）概要

■ 方法論：バイオ炭の農地施用（AG-004）

もみ殻・木材などを燃焼することでバイオ炭を生成し、バイオ炭を農地に撒くことで炭素貯留。

バイオ炭生成する設備が重要。

【主な適用条件】

- ① バイオ炭を、農地法第2条に定める「農地」又は「採草放牧地」における鈹質の土壤に施用すること。
- ② 施用するバイオ炭は、炭素含有率及び100年後の炭素残存率のデフォルト値が適用できる種類であること、又はそのようなデフォルト値が適用できる原料及び製炭温度により製造されたものであることが、客観的に確認できること。
- ③ バイオ炭の原料は国産であり、塗料、接着剤等が含まれていないこと。また、他に利用用途のないものであること（燃料用炭の副生物等も対象）。

【方法論のイメージ】



■ バイオ炭とは？

もみ殻・木材などのバイオマスを酸素のない状態の350°C超で加熱して作られる固形物（バイオ炭）を農地に撒くことで土壤に炭素貯留。



■ バイオ炭施用によるメリット・デメリット

<メリット>

- ・ 土壌改良剤として使用することで、土壌状態の改善（有機物、PH、栄養分）
 - ・ バイオ炭が微生物のすみかとなり、微生物の増加
 - ・ バイオ炭がスポンジのような役割を行うことで、養分の調整（土壌内の養分が少ないときに、土壌に放出）
- 土壌状況の改善、収量増加されたという結果も

<デメリット>

- ・ 施用しすぎると、土壌PHが高くなりすぎて（アルカリ）、農作物への悪影響に。

■ バイオ炭クレジットスキームイメージ

バイオ炭クレジット創出フローは、もみ殻などを原料としてプラントでバイオ炭を生成し、農地に施用することでクレジット発行が可能。



■ クレジット創出量

各原料によるクレジット創出量は表の通り。（プラント燃料や輸送により変更あり）

販売されたクレジットの収益をお戻し。（一部Green Carbonの手数料）

＜バイオ炭1tからできるクレジット創出量＞ ※最大値

原料(例)



もみ殻



木片

種類/原料	炭素含有率	炭素残存率	クレジット創出量(t)
白炭	0.77	0.89	2.51
黒炭	0.77	0.89	2.51
オガ炭	0.77	0.89	2.51
粉炭	0.77	0.89	2.51
竹炭	0.778	0.8	2.28
家畜糞尿由来	0.38	0.65	0.91
木材由来	0.77	0.65	1.84
草本由来	0.65	0.65	1.55
もみ殻・稲わら由来	0.49	0.65	1.17
木の実由来	0.74	0.65	1.76
製紙汚泥・下水汚泥由来	0.35	0.65	0.83

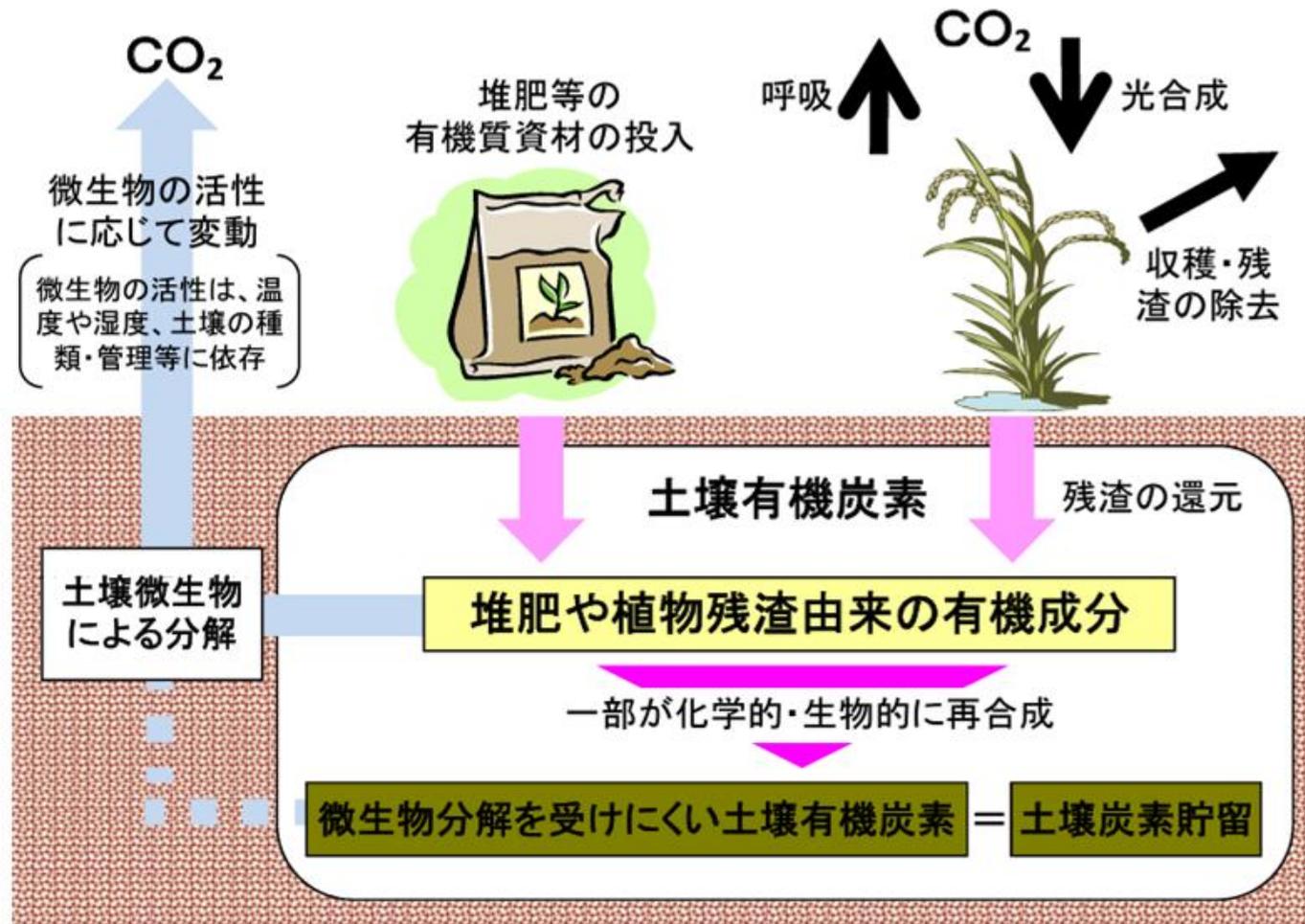
クレジット単価
(円/t)



5,000円～10,000円
(想定)

■ カーボンファームの定義

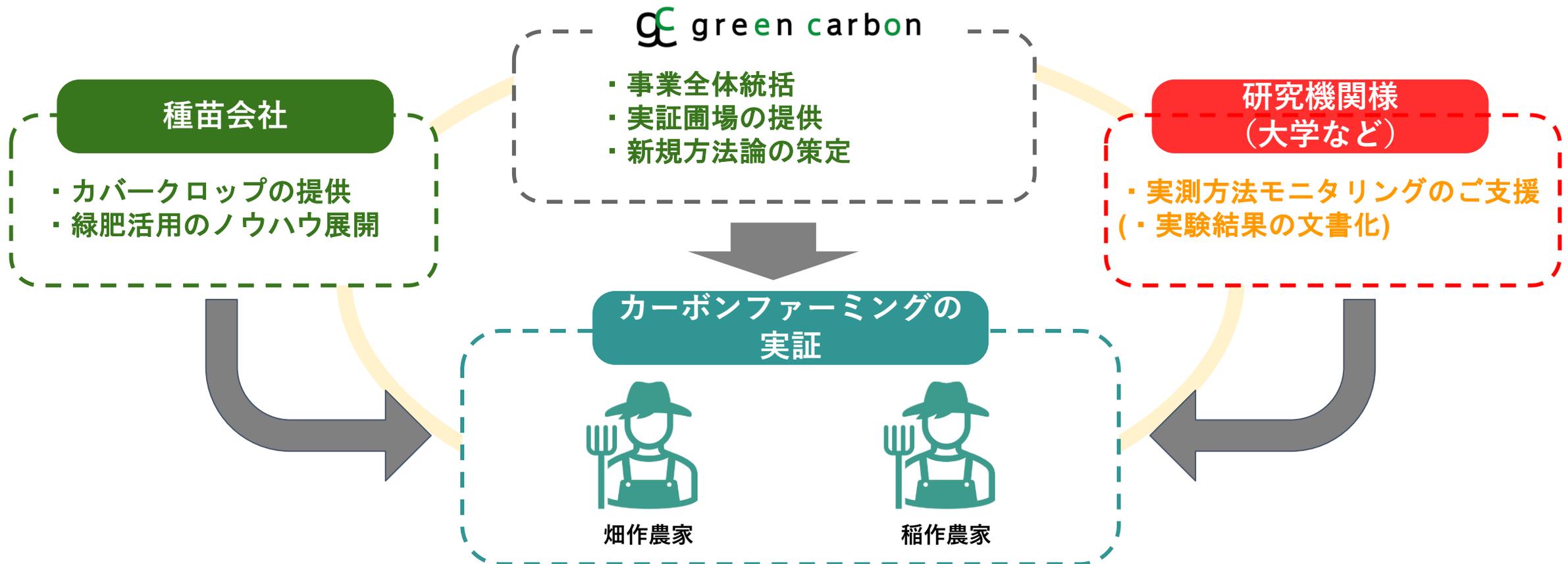
土壌の大気中のCO₂を農地土壌に取り込み、土壌有機炭素量を向上させ
温室効果ガスの排出削減を目指す農法。



■ 全体スキーム（案）

補助事業を通して、種苗会社様・研究機関様と連携させていただき、実際の農家様の圃場での実証を想定。

研究機関様には、実証方法・測定/実測方法・文書化等をご相談させていただきたいです。



■ カーボンファームिंग（土壌有機炭素）に関する実証状況

J-クレジット創出推進事業にて北海道での農地貯留実験を実施中。

東南アジアで農業分野における知見が深いSEARCAと、各国での農地貯留プロジェクト実施中。

PJ組成後、投資家を集める予定。

green carbon

TOP Corporate News Services R&D Sustainability Contact Recruit

NEWS R&D RELEASE

Green Carbon株式会社は、農林水産省公募「令和6年度農業分野のJ-クレジット創出推進支援事業」に採択

2024年8月23日



SEARCA to create SEA carbon farming consortium

28 July 2023 • Source/s: The Asset

The non-profit organization Southeast Asian Regional Center for Graduate Study and Research in Agriculture (SEARCA) plans to create a carbon farming consortium to generate carbon credits and cut greenhouse gas (GHG) emissions while raising rice farmers' income.

SEARCA director Glenn B. Gregorio, who made the announcement during a roundtable discussion, entitled Sustainable Food and Agriculture System in Southeast Asia, organized by the non-profit and the Philippine central bank Bangko Sentral ng Pilipinas, says the consortium will give incentives for Asian farmers to adopt innovative technologies that will reduce emission of a very powerful GHG – methane – that comes from rice farming, and will generate carbon credits in the future.

農林水産省公募
「令和6年度農業分野のJ-クレジット創出推進支援事業」に採択

農林水産省が公募する令和6年度農業分野のJ-クレジット創出推進支援事業に採択されたことをお知らせします。本補助事業は「みどりの食料システム戦略」に基づき、農業分野におけるJ-クレジットの活用拡大に向け募集されたもので、Green Carbonはカーボンファームिंग（農地貯留）のJ-クレジット新規方法論策定を目指してまいります。

green carbon

令和6年度農業分野の
J-クレジット創出推進支援事業

■ Green Carbon社の「カーボンファーマーミング」クレジット取得状況

J-クレジット、JCMは新規方法論策定予定。ボランタリーはPJ組成予定。

新規方法論策定予定

PJ組成予定

方法論新規策定予定



J-クレジット制度



JCM THE JOINT CREDITING
MECHANISM

Gold Standard®

■ カーボンファーマーリング事例（海外）

海外では、既にプロジェクトが複数組成されており、
海外におけるボランタリークレジットの（Verra）の方法論[VM0042]で認証されている。



The Project

Climate-Smart Agriculture (CSA) takes into consideration the diversity of social, economic and environmental contexts, including agro-ecological zones. Implementation requires the identification of climate-resilient technologies and practices for the management of water, energy, land, crops, livestock. And as the world moves to implement market-based measures to promote GHG mitigation, markets can offer an additional incentive for small-holder farmers to adopt climate-smart practices.

出典: VNV Advisory [Sustainable Agriculture in India] より

■ 参考：土壤有機炭素蓄積量の測定（Verra - VM0042）

既存の農地管理施策の一つ以上の新しい変更(緑肥施用を含む)を導入することによる
土壤有機炭素蓄積量の変化量からクレジット創出を目指す、海外の方法論。



VM0042

METHODOLOGY FOR IMPROVED
AGRICULTURAL LAND MANAGEMENT

⇒ ベースラインシナリオとの比較を行い、**土壤の炭素貯蓄量増加**
かつ農地管理全体におけるCO₂/CH₄/N₂O純排出量の減少を図る。

最終成果報告

■ 取り組み状況：概要

バイオ炭は、東京都内の実証地確保は確定し、大学研究機関との契約も完了し実証、成果。
カーボンファームのサンプリングは完了し、土壌成分について検証。

(バイオ炭)				
2025年4月	2025年4月	実証地での交渉	三鷹の農家への訪問、展開依頼	完了
2025年4月	2025年4月	バイオ炭散布	練馬農家にてバイオ炭散布	完了
2025年4月	2025年4月	バイオ炭調達	バイオ炭メーカー（関西産業）との交渉	完了
2025年4月	2025年6月	実証地の交渉	散布先の交渉	完了
2025年8月	2025年10月	土壌の確認	練馬農家を始め、土壌の改善度合いと収穫量の計測	完了
2025年8月	2025年9月末～11末	PJ登録	J-クレジットへの登録	完了
2025年12月	2025年12月	クレジット認証	J-クレジットの認証	完了
2025年8月	2026年3月	クレジット認証販売先確保	バイオ炭クレジット販売先の交渉	実施中
2026年1月	2026年4月	クレジット販売開始	東京都内の企業への販売、事例創出	未着手
(カーボンファーム)				
2024年9月	2025年5月	実証地の交渉とサンプリング	実証先でのサンプリングデータ採取	実施中
2025年4月	2025年4月	実証地での交渉	千葉農家訪問緑肥の土壌サンプリング	完了
2025年3月	2025年6月～8月	実証地での交渉	東京都内の実証先の確保	実施中
2025年3月	2025年6月～8月	土壌サンプリング	東京都内でのサンプリング	完了
2025年4月	2025年11月	実証データの構築	茨城大学・雪印種苗との連携	実施中
2025年7月	2025年10月～12月	播種実施・サンプリング	土壌調査	完了
2025年10月	2025年12月	すき込み（緑肥）	すき込んで土壌調査	完了
2025年7月	2025年12月	プロジェクト登録・認証	Verraへの登録・SEARCAとの連携	未着手
2026年1月	2026年3月	クレジット化の検証	クレジット化の可能性を検証	未着手

■ バイオ炭プロジェクト：成果報告

バイオ炭に関しては、**実証農地先の選定と東京都やJA経由でコネクションを確立。**
バイオ炭の購入先（仕入れ先）が選定。

選定農地：八王子農家



バイオ炭購入先：関西産業



■ バイオ炭プロジェクト：実証事業を通して浮かび上がった課題

①プラントの設置場所/費用面の課題、②農地でのバイオ炭散布の課題が挙げられる。

①プラントの設置場所/費用面の課題

もみ殻を一括に集めて炭化させるためにプラントを、東京以外のエリアの場合、**カントリーエレベーターやライスセンターの横に併設するが、東京では該当場所がなくプラント設置が困難だと判断した点。**



※カントリーエレベーター、ライスセンター

②農地でのバイオ炭散布の課題

連携企業の協力を頂き、購入バイオ炭の置き場所の確保を予定していたが、**置き場所の確保がうまくいかず、運搬部分における課題があった点。**



※バイオ炭置き場イメージ

■ バイオ炭プロジェクト：今後の障壁となる懸念

農家のバイオ炭自体の認知不足

バイオ炭自体の認知も勿論、バイオ炭を散布することによりJ-クレジットを創出し副収入を得られる事を知らない。

バイオ炭の効果に関するエビデンス不足

バイオ炭を散布することにより**土壌改良、農薬削減**に寄与するが、論文データや数値的データがまだ既出されていない。

バイオ炭の製造コスト

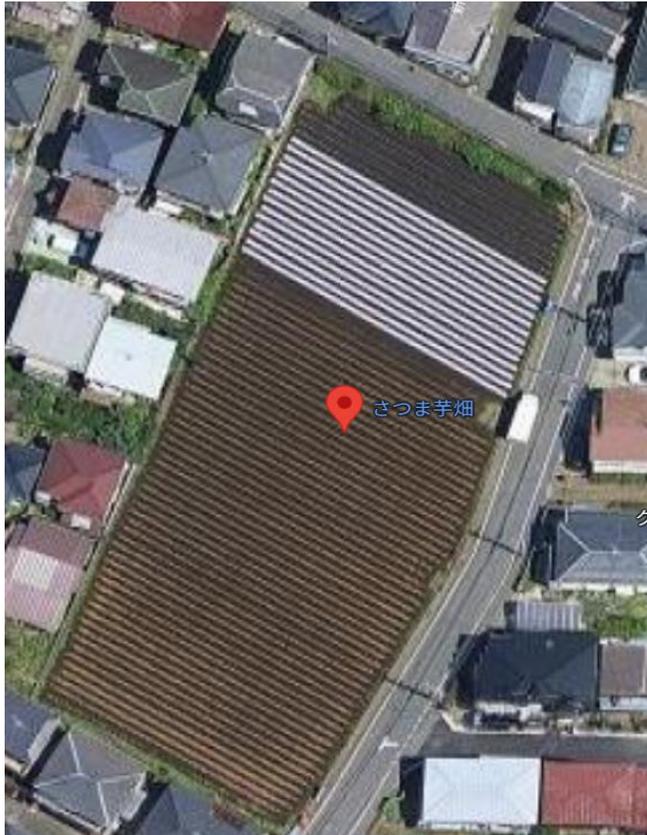
今後の拡大を考えると、**大容量のバイオ炭の製造が必要だが、大容量製造プラントがない**。製造量が多いプラントは高価なため、コスト設計も課題となる。

バイオ炭の販売価格の設定

バイオ炭は土壌改良剤として農家に販売し費用設計するが、**販売価格はバイオ炭の効果に依存するため、より明確な効果が必要となる**。農家側のバイオ炭施用による効果、施用に必要なコストや労力等も明らかにしていく必要がある。

■ バイオ炭施用実証地

【調査地】 練馬区白石農園
【作物】 サツマイモ



(引用 Google Map)

【気象条件】 データ

年平均気温	17.2 (°C)
年間降水量	1776.5 (mm)
年間日照時間	2135.8 (h)
年最高気温	39.3 (°C)
年最低気温	-3.4 (°C)
土壌分類名	多腐植質厚層 アロフェン質 黒ボク土

【施用したバイオ炭】

主成分： ケイ酸分：50%
炭素分：40%

炭成分中の微量元素(/kg中)：

K	11,000 mg
Ca	5,700 mg
Na	1,700 mg
Mn	790 mg
Fe	190 mg
Zn	110 mg
Cu	微量



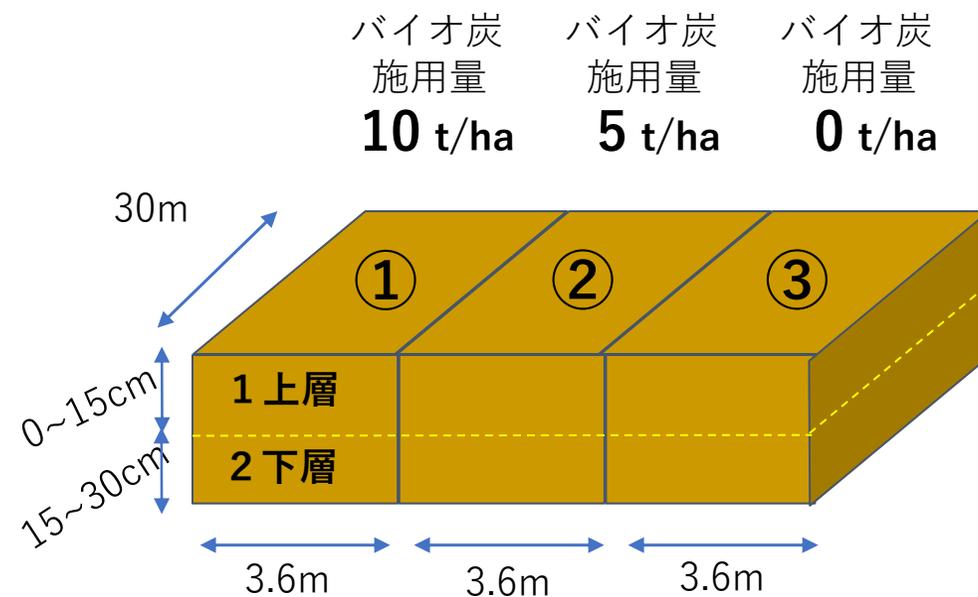
■ バイオ炭施用前後・土壌採取位置

【バイオ炭施用（左：施用前、右：施用後）】



【土壌採取位置】

バイオ炭施用量が異なる3区画の
上層・下層、計6箇所から試料を採取
(①-1,2 ②-1,2 ③-1,2)



■ バイオ炭散布写真（練馬の農家様）



■ バイオ炭施用土壌の採取（練馬の農家様）



■ 土壌成分の検証：実験方法

- 土壌有機物炭素量(=SOC stock : Soil Organic Carbon stock)→NCコーダ測定
- 微生物量→ATP測定
- 団粒性→団粒分析試験は100cc採土円筒で採取した不攪乱試料を用い、水中ふるい分け法
- 収量→一定の区画を決め、単位面積あたりの収量を測る



NCコーダ 燃焼法により測定 (SUMIGRAPH® NCH-22A セミオートタイプ)

■ J-クレジット/プロジェクト登録対応済み

上記実績を踏まえ、J-クレジットにバイオ炭施用のプロジェクト登録を実施。

※東京都内の実証やプロジェクト登録は都内初事例

J-クレジット制度
J-CREDIT SCHEME
プロジェクト登録証

プロジェクト番号： JCS-PJP00387

プロジェクトの名称
全国の農地へのバイオ炭施用におけるJクレジット創出プロジェクト

プロジェクト実施者名
Green Carbon株式会社

代表者氏名
大北 潤 様

上記プロジェクトについて申請内容を審議した結果、プロジェクト登録要件に適合すると認められるため、J-クレジット制度実施要綱に基づき、J-クレジット制度に登録いたします。

登録申請日：2025年08月25日
J-クレジット制度 制度管理者
経済産業省・環境省・農林水産省

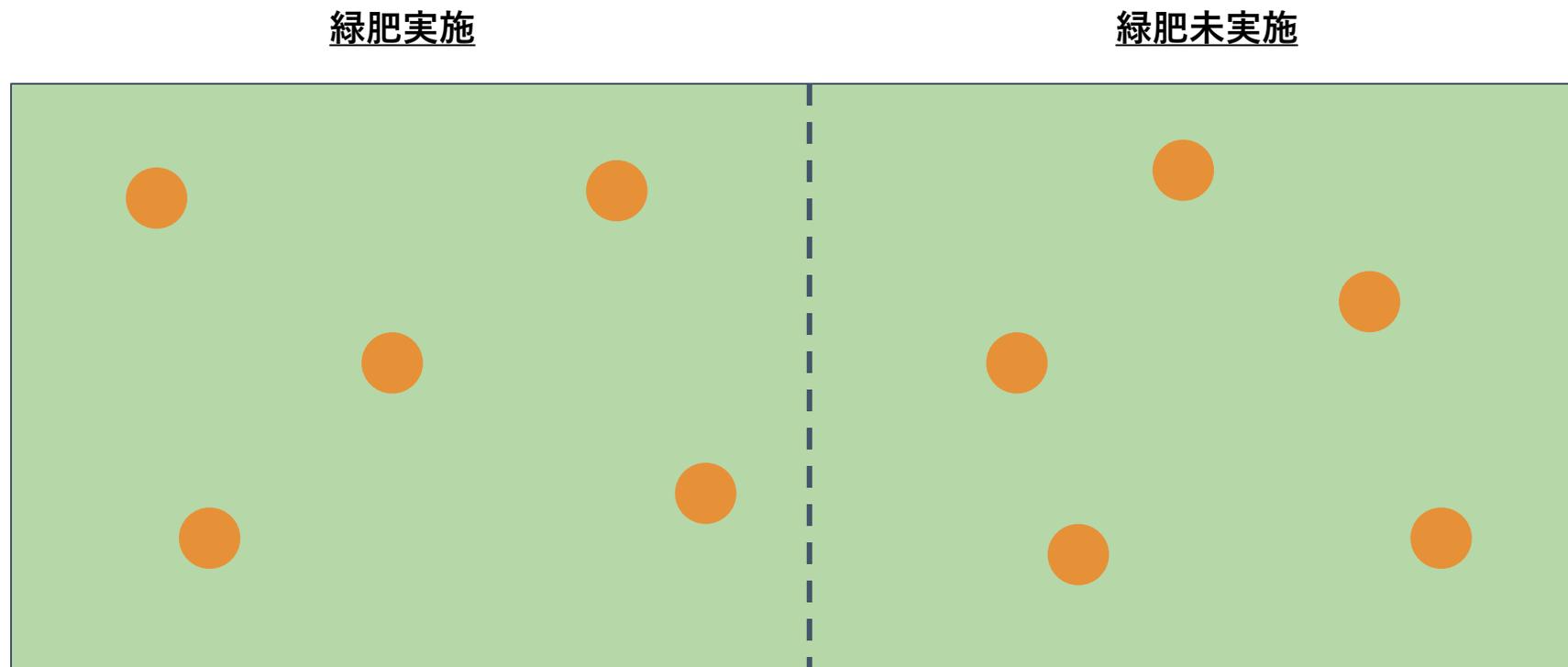


■ カーボンファームिंग（緑肥）実証地（東京都内：水田）



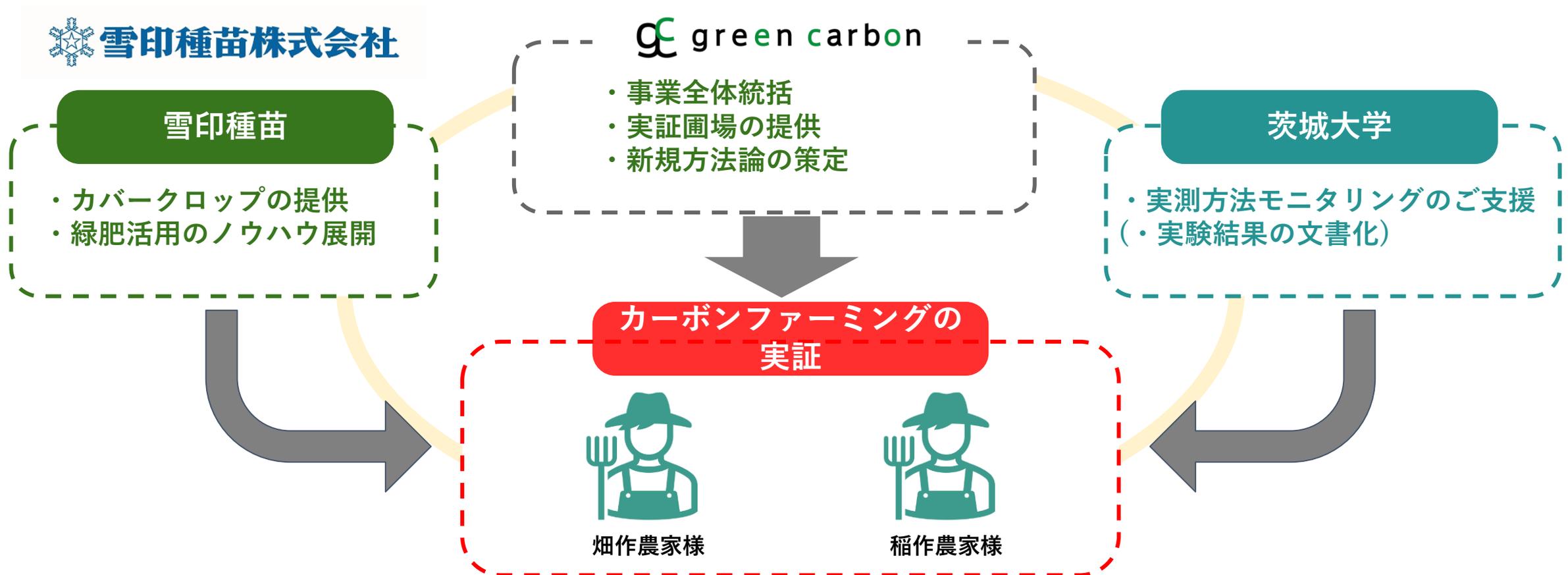
■ カーボンファームリング（緑肥）実施イメージ

1圃場を緑肥実施/未実施でわけていただき、それぞれの区域内にて数カ所土壌サンプリング。
(面積は等分でなくても可)



■ 実証連携スキーム

補助事業を通して、雪印種苗・茨城大学と連携し、実際の農家様の圃場で実証。
水田での裏作での緑肥、畑作における緑肥を想定。



■ 実証事業から見えたカーボンファーマーミング（緑肥）における農家の課題

緑肥への知識不足

カーボンファーマーミング（緑肥）自体を知らない、やり方が分からない等の、農家の知識不足が散見された。

⇒東京都の実証結果を農家に拡散、認知を拡大し、カーボンファーマーミングの取り組みを好事例を増やす。

緑肥への費用対効果がわからない

カーボンファーマーミング（緑肥）による、収量増加や減肥（肥料削減）、コストカット等の効果を試算できない。

⇒GC社がシミュレーションを提供。必要な作業を削減し、クレジット化で収益増加をもたらす。

■ PR：カーボンファーマーミングセミナー開催/登壇

GHGを削減する カーボンファーマーミングで 農業を再生しよう!!

シンポジウム

2025.9.26 (金) 14:00~16:00

会場：おだわらイノベーションラボ

ハイブリット方式 (Live配信あり)

会長
小山田大和事務局
望月誠美気象予報士・キャスター
井田寛子Green Carbon (株)
井家良輔農研機構
白戸康人茨城大学教授
小松崎将一

カーボン・ファーマーミング推進協会設立準備委員会

ポテンシャル/今後の展開

■ バイオ炭のポテンシャル（東京都農家）

東京都内の農地でバイオ炭を施用した場合の、収量増加による農家の収益ポテンシャル。

※GC社試算のシミュレーション



※1haあたり25t：収穫量

※1haあたり25t：収穫量

※1haあたり10tバイオ炭を散布
※1tあたり2万円の利益で試算

■ カーボンファーマーミング緑肥のポテンシャル（東京都農家）

東京都内の農地で緑肥を実施した場合の、収量増加による農家の収益ポテンシャル。

※GC社試算のシミュレーション



※1haあたり5.3t：収穫量

※1haあたり5.3t：収穫量

※1haあたり5tクレジット化
※1tあたり1万円の利益で試算

■ ワンプラットフォームサービス「Agreen」の展開



クレジット登録・認証時に作成する書類や煩雑な作業をワンプラットフォーム内で完結。

The screenshots illustrate the user journey in the Agreen platform:

- Top Left:** Login screen with fields for email and password, and a 'ログイン' button.
- Top Middle:** Dashboard showing a '再提出の必要があります' (Need to re-submit) notification and a '稲作コンソーシアム' (Rice Production Consortium) section with buttons for '圃場リスト入力へ' and '圃場基本情報入力へ'.
- Top Right:** News and Learning Content sections with video thumbnails.
- Bottom Left:** '申請一覧' (Application List) screen showing application status for '令和5年度' (Reiwa 5th year) and '令和4年度' (Reiwa 4th year).
- Bottom Middle:** '令和6年度申請書作成' (Reiwa 6th year application creation) screen with a progress bar and a table for '中干しグループ作成' (Dry-down group creation).
- Bottom Right:** 'ウォレット' (Wallet) screen showing a balance of '保有クレジット 2000t' and a list of transactions.

① 方法論
手法の確定

②
クレジット申請

③
クレジット登録

④
クレジット販売



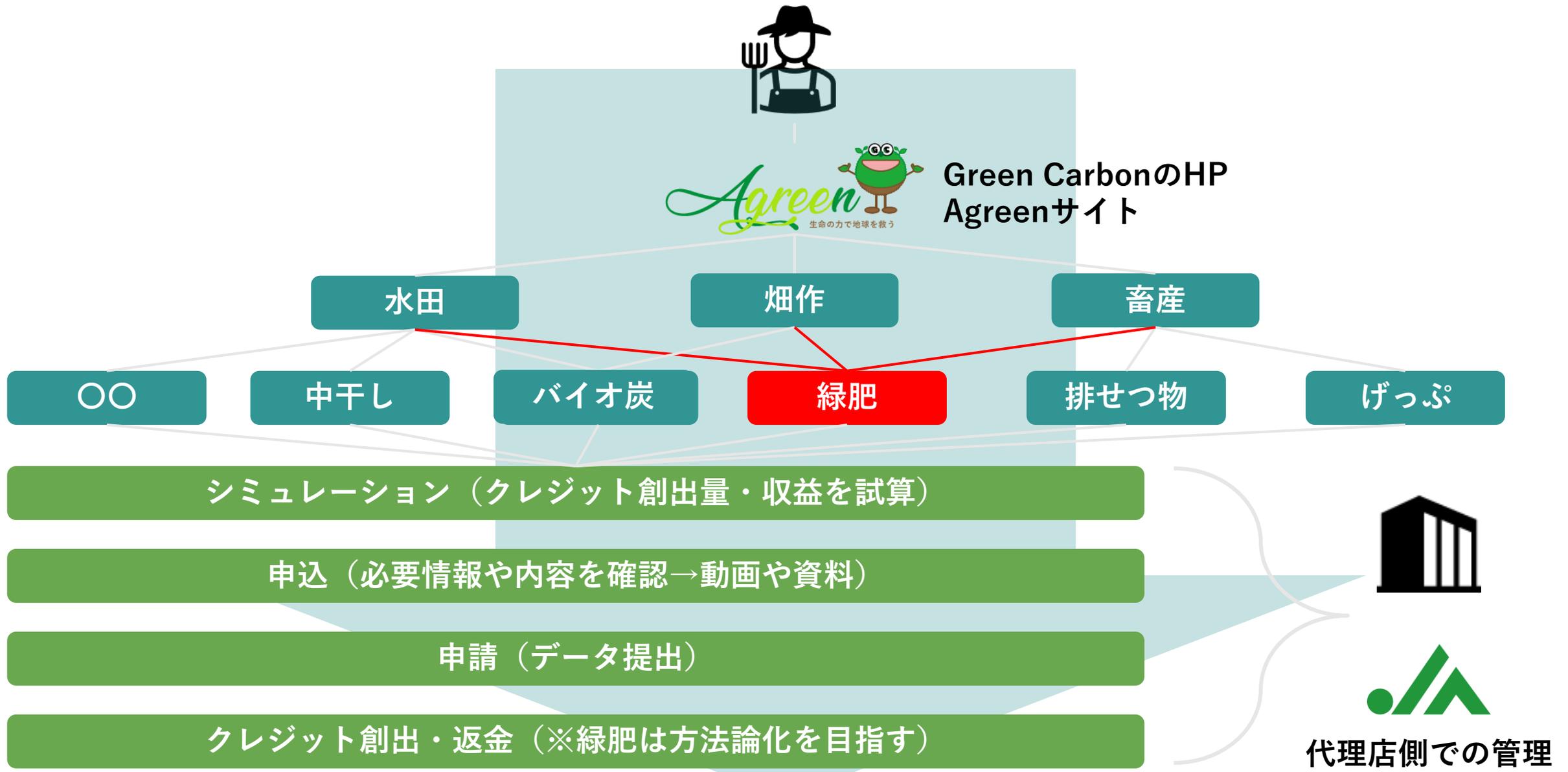
シミュレーションで簡単に試算

書類アップロードを簡易化

プラットフォームで販売



Agreen 全体イメージ



■ こんな方と組みたい

脱炭素化を目指す
自治体/企業様

自然由来のカーボンクレジットの共同創出or購入

自然由来カーボンクレジットを活用し、
地場企業の商品・サービスをカーボンニュートラル化

農地を活用したい
農家/自治体様

水田、畑作、酪農農家と連携し、クレジットを創出
農家に収益を還元

環境配慮米などの付加価値商品の創出

脱炭素領域の
知見を深めたい
農家/自治体様

当社の脱炭素学習ツールを通じた、
理解の深化や勉強会の実施

脱炭素系の政策への壁打ち、セミナーの実施